



第4次アクションプラン 全国の農業高校の新戦略 グローバル・アグリハイスクール宣言Part II			自校のスクールアクションプラン						
農業高校の ミッション (目指す学校像)	行動計画 (目指す学校像の具現化に向 けて)	キーワード (該当ワードを○で囲 む)	学科名	本年度重点取組	具体的方策(5W1H明記、数値目標奨励(年度末ABCDE評価の根拠))	SDGs 目標 NO.	評価 (ABC DE)	次年度の主な課題	
○○○○○ 地地地地グ 域域域域口 防交環社 災流境会力 をのを・ル 推拠守産教 進点り業育 すと創にで るな造寄人 学るす与材 校学るすを 校学る育 校学て 校る学 校	1	生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育	アグリハイスクールの顕彰、進路実現、高大連携、アグリハイスクール教育、イノベーション教育	食品科学	インターンシップ教育 高大連携	長期休業中の希望職種での職業体験で進路実現100%へ向けて指導 高大連携による販売計画	4	A	連携大学への進学やインターンシップ先の企業への就職など進路実現と直結する取組にする。
				環境活用	ものづくり教育 高大・企業連携	「造園技能士」国家資格取得の実技指導を高大連携と造園マイスター講師指導で伝統技術を伝え、緑化産業への担い手を育成	4	A	造園技能士取得のために実技指導できる環境整備と施工道具の充実が必要である。
	2	世界と日本をつなぐグローバル教育	グローバル教育、国際交流	食品科学	国際交流	オイスカ研修生との異国間交流 日本の伝統文化を伝えグローバルな考えを育成	10	A	楽しく交流でき今後も継続したいが、県予算が全面カットのため予算捻出先を検討する。
				環境活用	GAP教育	「水稻」栽培において取得している県GAPを今年度更新し、科目「総合実習」にて実践	12	A	作物倉庫改築工事が終了し、更新申請を終えた。実施段階で実践する。
	3	地域農業の生産を支える教育	生物生産、特産物、GAP、経営	都市園芸	GAP教育	次年度の更新に向け学科全体にGAP取得学習を浸透させ、チェック体制の充実	12	A	GAPに準じた手順で実習を行い、複数で確認し合い安全な農産物の生産を行う。
				食品科学	地域貢献	地元企業との共同開発による地域の活性化	12	A	楽しく企業連携できたが次年度の事業継続は3学期企業向け報告会で決定のため気を引締める。
	4	地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する教育	地域貢献、6次産業化、食農教育、経営、HACCP	環境活用	地域貢献	生徒による農産物販売会の運営	4 12	A	毎回多くのお客様に来場頂いたが、実施方法について再検討する必要がある。
				食品科学	循環型社会	NPO法人ELCによる子ども食堂の開催	1 2 3	A	親子農園やそこでの収穫物を利用して子ども食堂を開催できたので、継続して活動する。
	5	地域環境を守り、創造する教育	環境創造、国土保全、循環型農業、循環型社会	環境活用	循環型農業	福岡市動物園堆肥と本校生産堆肥を組み合わせた有機栽培農業を推進する。	12	A	実習圃場全般に散布することにより、土壌改良と併せて有効活用できた。
				都市園芸	幼稚園・小学校との交流事業	生徒主体で栽培指導や卒業式へ向けた草花を使った装飾についての制作支援	4	A	充実した交流ができたため、次年度も継続し、地域に根差した交流ができるようにする。
	6	地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育	地域資源活用、特産物、地域交流、食農教育	環境活用	地域交流	「いも掘り体験」及び「ふれあい動物体験」を通じた異校種との交流	3 4	A	授業と交流時間帯が合うように時間割変更等で生徒が交流がしやすい日程を綿密に計画する。
				食品科学	地域資源の活用	太宰府市の梅を活用した商品開発	9 12	A	連携企業が年明けに廃業され学習活動が継続できなくなったため、新たな連携先を見つける必要がある。
				生活デザイン科	地域交流	学科間連携による福農カフェの実現	12	A	今年度は企業連携や学科間連携ができたので、今後も継続する。
	7	Society5.0の時代に合った教育	スマート農業、ICTを用いた学習	都市園芸	プロファームの活用 Chromebookの活用	シクラメン栽培における栽培データを科目「総合実習」等に活用する 栽培上の情報整理収集等「生徒一人一圃場」のプロジェクト学習に活用する	4 12	B	プロファームを活用して調査データをまとめ、発表会を開催する。
				環境活用	スマート農業学習	水稻栽培においてロボットトラクター、ドローン農薬散布機の実演会を開催する。	4 9	A	農機具メーカー等に依頼して実演して頂いたが、機械輸送費等の費用が課題である。
				食品科学	食品DXの推進とICT機器の活用	加工室のペーパーレス化と原材料の管理をクラウド上でのデジタル管理 Chromebook及びGoogleクラスルームの活用によるデータ集約及び活用	4 9 12	A	プログラミング授業も充実でき次年度は機器を用いた環境制御のプログラミング学習をする。
8	地域防災を推進する教育	地域防災 多面的機能	環境活用	森林活用教育	学校林の林産物利用と森林教育	15	B	山林生態をより観察しやすくするためにも、既存の山林遊歩道の整備が必要である。	
			食品科学	地域に必要とされる学校作り	空缶を元に長期保存用パンの開発と地方自治体への提供を通して、地域防災について考える	12 13	B	防災意識は高まったが実際の製品化ができず、次年度は受入れ先を設定したい。	

※本プランは全国農業高等学校長協会「第4次アクションプラン」の規定により、各学校ホームページにて公表、年度末に福岡県教育委員会に報告します。また、福岡県農業教育研究大会誌にも毎年掲載(情報共有)します。

★作成・提出の流れ

①各学科は「行動計画1～8」のうち必ず1つ以上「本年度重点取組」「具体的方策」を記載する。②毎年度始めに「本年度重点取組」「具体的方策」を各学科全職員、次に農務部全職員で協議して作成し、4月30日までに校長会第1研究委員会事務担当者に提出及び各校のHPに掲載する。③毎年度末に「評価」「次年度の主な課題」を各学科全職員、次に農務部全職員で協議して作成し、2月10日までに校長会第1研究委員会事務担当者に提出及び各校のHPに掲載する。④令和8年10月から本取組についての検証を行い総括する。

★「評価ABCDE」の基準：A90～100%の成果を得られた B70～89%の成果を得られた C40～69%の成果を得られた D10～39%の成果を得られた E0～9%の成果を得られた